



令和4年度卒業式 式辞

ただいま、卒業証書を授与され、本校を巣立ちゆく、七十五回生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんは、令和二年四月にこの二見中学校に入学しました。中学校生活への期待を、胸に抱いた入学式の翌日から約二か月間の突然の臨時休校。希望から一転、得体のしれない不安に日本全体が覆われました。誰もがこの先どのように過ごしていけばよいのかわからない。命を守るためとはいえ、様々な強い制限の中で始まった六月からの中学校生活でした。

その後も日常の授業をはじめ、学校行事や部活動でも行動の、規制の強化と緩和が繰り返されました。そんな状況下でも皆さんは自分のやるべきことを見据え、取り組んできました。そして、友達と楽しく生活しました。この三年間は皆さんの人生において、かけがえのない時間だったのではないのでしょうか。何よりも、大切なことは、皆さんが、中学校を立派に卒業する今日を迎えている、ということです。

この卒業という節目にあたり、皆さんにお伝えしたいことがあります。三年生を送る会で、皆さんが聞かせてくれた「正解」の中にも歌われています。これから先、様々なイベントが皆さんを待っています。

「進学、就職、出会い、別れ」などですが、言葉には表せないくらいの多くのことが起こります。その時に皆さんは自分がどの道に進むのか、どうしたいのかを選ぶことになります。そして、その選択には「その後・その結果」があります。その結果はその時点では成功で喜ぶかもしれません。もしくは、失敗と感じ、落胆するかもしれません。ところが本当に正解かどうかは、その時には誰にもわかりません。わかっていることは、その結果が出た時、それが次への出発点だということです。皆さんは、その選択を繰り返し、それぞれの人生を紡いで

いくのです。過去は取り戻せませんが、未来は誰にでもつかむことができます。前を向いて、その時その時に、最善を尽くしてください。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。長いようで、短い九年間だったことと思います。特に中学校の三年間は、思春期を迎え、心身ともに不安定な時期である上に、このコロナ禍も重なり、並々ならぬご苦労が、あったのではないのでしょうか。今日の佳き日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。心からお喜び申し上げます。また、三年間、本校の教育にご理解、ご協力を賜りましたことに、心からお礼を申し上げ、今後とも、地域の良き理解者として、本校の教育に、ご支援くださりますよう、お願いを申し上げます。

卒業生の皆さん、明日から、この二見中学校が皆さんの母校です。同時に、二万一千人を超える二見中学校の、同窓会の会員です。二見中学校の卒業生は、様々なところで活躍しています。今後、そのつながりが、皆さんを助けてくれることもあるはずです。これからも、二見中学校の校訓である「自治・協同・健康」を胸に学び続けて下さい。そして、次代を担う人になってくれることを願い、私たちは応援しています。

結びに、卒業生の皆さんの輝かしい未来と、保護者の皆様のご健勝を、心から祈念し、式辞といたします。

令和5年3月15日
明石市立二見中学校長

